

II 調査結果の概要

1 発育状態

(1) 身長(表1, 表2, 図1, 図2)

① 平成15年度の男子の身長(全国平均値。以下同じ。)は、9歳、15歳及び16歳で前年度の同年齢より増加しており9歳で過去最高となっている。その他の年齢では、12歳から14歳の各年齢で前年度より減少している。

女子の身長は、11歳で前年度の同年齢より増加している。その他の年齢では、7歳、8歳、13歳、15歳及び17歳の各年齢で前年度より減少している。

② 平成15年度の身長を親の世代(30年前の昭和48年度の数値。以下同じ。)と比較すると、最も差がある年齢は男子では13歳で4.6cm高く、親の世代の14歳にほぼ相当する。

女子では11歳で3.4cm高くなっている。

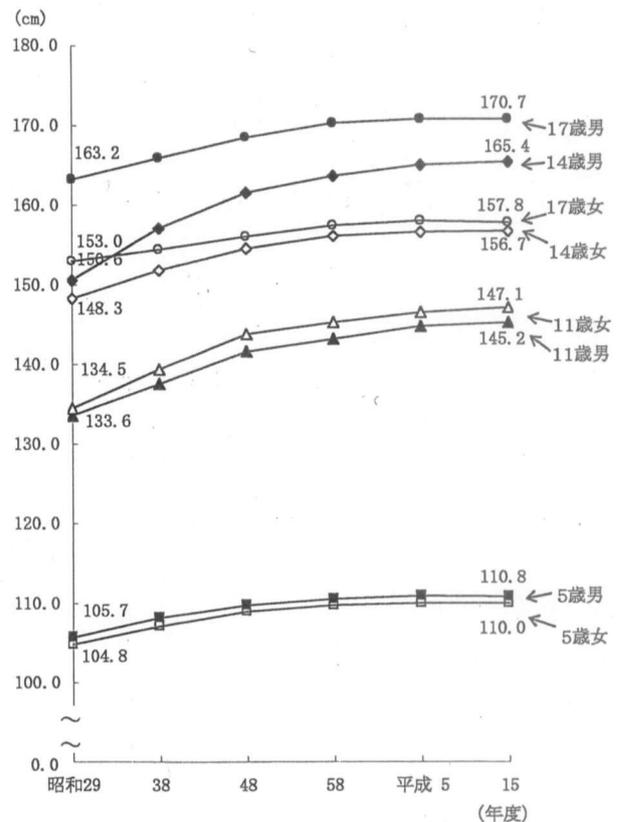
表1 年齢別 身長の平均値

区分		平成15年度 A	平成14年度	昭和48年度 B(親の世代)	差 A-B		
男	幼稚園 5歳	110.8	110.8	109.7	1.1		
	小学校	6歳	116.7	116.7	114.8	1.9	
		7歳	122.5	122.5	120.8	1.7	
		8歳	128.2	128.2	125.9	2.3	
		9歳	133.7	133.6	131.1	2.6	
		10歳	139.0	139.0	136.0	3.0	
	中学校	11歳	145.2	145.2	141.5	3.7	
		12歳	152.6	152.8	148.1	4.5	
		13歳	160.0	160.2	155.4	4.6	
		14歳	165.4	165.5	161.5	3.9	
	高等学校	15歳	168.6	168.3	165.6	3.0	
		16歳	170.0	169.9	167.5	2.5	
		17歳	170.7	170.7	168.4	2.3	
	女	幼稚園 5歳	110.0	110.0	108.9	1.1	
		小学校	6歳	115.8	115.8	114.0	1.8
			7歳	121.6	121.8	120.0	1.6
			8歳	127.4	127.5	125.4	2.0
9歳			133.5	133.5	130.9	2.6	
10歳			140.2	140.2	137.1	3.1	
中学校		11歳	147.1	146.8	143.7	3.4	
		12歳	152.1	152.1	149.2	2.9	
		13歳	155.1	155.2	152.7	2.4	
		14歳	156.7	156.7	154.5	2.2	
高等学校		15歳	157.2	157.3	155.5	1.7	
		16歳	157.7	157.7	155.8	1.9	
		17歳	157.8	157.9	156.0	1.8	

(注) 1. 年齢は、各年4月1日現在の満年齢である。以下の各表において同じ。

2. 下線の部分は、調査実施以来過去最高を示す。以下の表において同じ。

図1 身長の平均値の推移



③ 17歳（昭和60年度生まれ）の年間発育量をみると、男子では11歳から12歳時に発育量が著しくなっており、11歳時に最大の発育量を示している。

女子では9歳から10歳時に発育量が著しくなっており、10歳時に最大の発育量を示しているが、最大の発育量を示す年齢は、男子に比べ1歳早くなっている。

また、この発育量を親の世代と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は1歳早い11歳時となっており、5歳、6歳、8歳から11歳の各歳時で親の世代を上回っている。

女子については、発育量が最大となる時期は親の世代と同じ10歳となっており、5歳から9歳及び15歳の各歳時で上回っている。

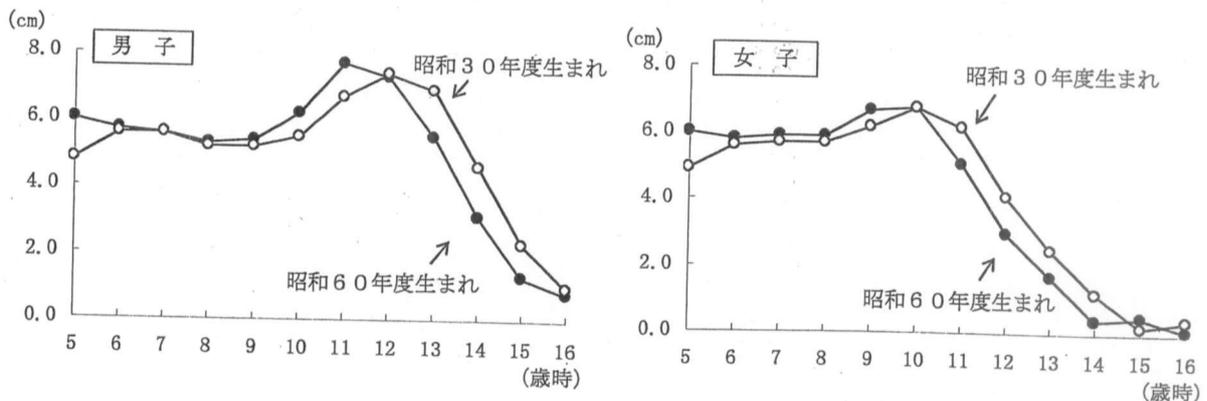
表2 昭和60年度生まれと昭和30年度生まれの者の年間発育量の比較（身長）

区 分	男 子		女 子		
	昭和60年度生まれ (平成15年度17歳)	昭和30年度生まれ (親の世代の17歳)	昭和60年度生まれ (平成15年度17歳)	昭和30年度生まれ (親の世代の17歳)	
総 発 育 量	59.9	60.8	47.9	49.5	
幼稚園 5 歳時	6.0	4.8	6.0	4.9	
小 学 校	6 歳時	5.7	5.6	5.8	5.6
	7	5.6	5.6	5.9	5.7
	8	5.3	5.2	5.9	5.7
	9	5.4	5.2	6.7	6.2
	10	6.2	5.5	6.8	6.8
	11	7.7	6.7	5.1	6.2
中 学 校	12 歳時	7.3	7.4	3.0	4.1
	13	5.5	6.9	1.7	2.5
	14	3.1	4.6	0.4	1.2
高 学 等 校	15 歳時	1.3	2.3	0.5	0.2
	16	0.8	1.0	0.1	0.4

(注) 1. 年間発育量とは、例えば、昭和60年度生まれの「5歳時」の年間発育量は、平成4年度調査6歳の者の体位から平成3年度調査5歳の者の体位を引いたものである。以下の表において同じ。

2. 網掛け部分は、最大の年間発育量を示す。以下の表において同じ。

図2 昭和60年度生まれと昭和30年度生まれの者の年間発育量の比較（身長）



(2) 体重 (表3, 表4, 図3, 図4)

① 平成15年度の男子の体重 (全国平均値。以下同じ。) は、7歳から9歳及び15歳から17歳の各年齢で前年度の同年齢より増加しており、8歳及び15歳から17歳は過去最高となっている。その他の年齢では、12歳から14歳の各年齢で前年度より減少している。

女子の体重は、6歳、9歳、11歳及び16歳の各年齢で前年度の同年齢より増加しており、16歳では過去最高となっている。その他の年齢では、5歳、10歳、12歳、13歳及び15歳の各年齢で前年度より減少している。

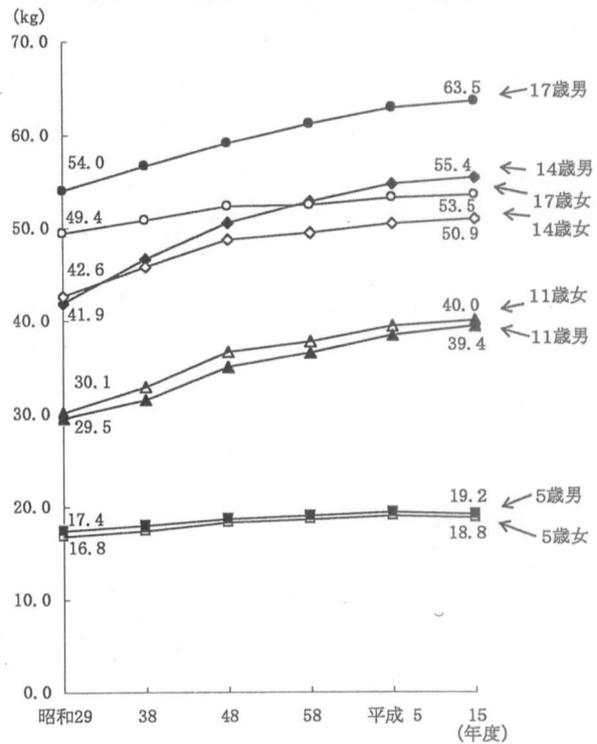
② 平成15年度の体重を親の世代と比較すると、最も差がある年齢は、男子は15歳で5.4kg重くなっており、親の世代の17歳に相当する。

女子は11歳で、親の世代より3.4kg重くなっている。

表3 年齢別 体重の平均値

区分		平成15年度 A	平成14年度	昭和48年度 B (親の世代)	差 A-B		
男	幼稚園 5歳	19.2	19.2	18.7	0.5		
	小学校	6歳	21.7	21.7	20.3	1.4	
		7歳	24.4	24.3	23.0	1.4	
		8歳	27.8	27.7	25.5	2.3	
		9歳	31.3	31.2	28.3	3.0	
		10歳	34.9	34.9	31.4	3.5	
	中学校	11歳	39.4	39.4	35.0	4.4	
		12歳	45.1	45.2	39.8	5.3	
		13歳	50.3	50.6	45.2	5.1	
	高等学校	14歳	55.4	55.5	50.5	4.9	
		15歳	60.4	60.3	55.0	5.4	
		16歳	62.2	61.9	57.6	4.6	
		17歳	63.5	63.2	59.1	4.4	
	女	幼稚園 5歳	18.8	18.9	18.3	0.5	
		小学校	6歳	21.2	21.1	19.9	1.3
			7歳	23.8	23.8	22.5	1.3
			8歳	26.9	26.9	25.0	1.9
9歳			30.5	30.4	28.1	2.4	
10歳			34.7	34.8	31.9	2.8	
中学校		11歳	40.0	39.8	36.6	3.4	
		12歳	44.8	44.9	41.6	3.2	
		13歳	48.1	48.3	45.8	2.3	
高等学校		14歳	50.9	50.9	48.7	2.2	
		15歳	52.3	52.4	50.9	1.4	
		16歳	53.4	53.3	51.9	1.5	
		17歳	53.5	53.5	52.3	1.2	

図3 体重の平均値の推移



③ 17歳（昭和60年度生まれ）の年間発育量をみると、男子では11歳から13歳時に発育量が著しくなっており、11歳時に最大の発育量を示している。

女子では10歳から11歳時に発育量が著しくなっており、11歳時に最大の発育量を示している。

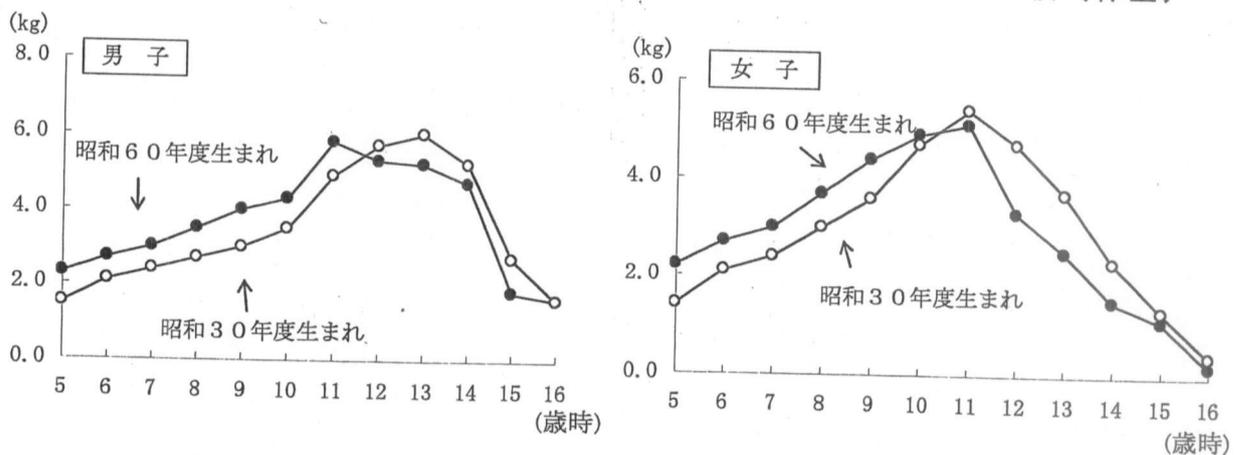
また、この発育量を親の世代と比較すると、男子では発育量が最大となる時期は、2歳早い11歳となっており、11歳以下の各歳時で親の世代を上回っている。

女子については、発育量が最大となる時期は親の世代と同じ11歳となっており、10歳以下の各歳時で上回っている。

表4 昭和60年度生まれと昭和30年度生まれの者の年間発育量の比較（体重）

区 分	男 子		女 子		
	昭和60年度生まれ (平成15年度17歳)	昭和30年度生まれ (親の世代の17歳)	昭和60年度生まれ (平成15年度17歳)	昭和30年度生まれ (親の世代の17歳)	
総 発 育 量	44.2	41.3	34.6	35.0	
幼稚園 5 歳時	2.3	1.5	2.2	1.4	
小 学 校	6 歳時	2.7	2.1	2.7	2.1
	7	3.0	2.4	3.0	2.4
	8	3.5	2.7	3.7	3.0
	9	4.0	3.0	4.4	3.6
	10	4.3	3.5	4.9	4.7
	11	5.8	4.9	5.1	5.4
中 学 校	12 歳時	5.3	5.7	3.3	4.7
	13	5.2	6.0	2.5	3.7
	14	4.7	5.2	1.5	2.3
高 学 校 等 校	15 歳時	1.8	2.7	1.1	1.3
	16	1.6	1.6	0.2	0.4

図4 昭和60年度生まれと昭和30年度生まれの者の年間発育量の比較（体重）



(3) 座高 (表5)

① 平成15年度の男子の座高 (全国平均値。以下同じ。) は、15歳で前年度の同年齢より増加している。その他の年齢では12歳及び13歳の各年齢で前年度より減少している。

女子の座高は、11歳で前年度の同年齢より増加している。その他の年齢では9歳及び15歳の各年齢で前年度より減少している。

② 平成15年度の座高を親の世代と比較すると、最も差がある年齢は、男子では12歳及び13歳で、それぞれ2.0cm伸びている。

女子では11歳で、親の世代より 1.7cm伸びている。

表5 年齢別 座高の平均値

(cm)

区分	平成15年度 A	平成14年度	昭和48年度 B (親の世代)	差 A-B			
男	幼稚園 5歳	62.1	62.1	62.1	0.0		
	小学校	6歳	65.0	65.0	64.4	0.6	
		7歳	67.7	67.7	67.2	0.5	
		8歳	70.4	70.4	69.5	0.9	
		9歳	72.8	72.8	71.8	1.0	
		10歳	75.1	75.1	73.9	1.2	
	中学校	11歳	77.9	77.9	76.0	1.9	
		12歳	81.3	81.5	79.3	2.0	
		13歳	85.0	85.2	83.0	2.0	
	高等学校	14歳	88.1	88.1	86.2	1.9	
		15歳	90.1	90.0	88.8	1.3	
		16歳	91.0	91.0	89.8	1.2	
		17歳	91.5	91.5	90.3	1.2	
	女	幼稚園 5歳	61.7	61.7	61.6	0.1	
		小学校	6歳	64.6	64.6	63.9	0.7
			7歳	67.4	67.4	66.8	0.6
			8歳	70.1	70.1	69.1	1.0
9歳			72.8	72.9	71.7	1.1	
10歳			76.0	76.0	74.5	1.5	
中学校		11歳	79.5	79.3	77.8	1.7	
		12歳	82.2	82.2	81.1	1.1	
		13歳	83.8	83.8	83.1	0.7	
高等学校		14歳	84.8	84.8	84.2	0.6	
		15歳	85.2	85.3	84.9	0.3	
		16歳	85.4	85.4	85.0	0.4	
		17歳	85.4	85.4	85.0	0.4	